

晝寝する前に顔と手を洗ひ、歯を磨く。男の子も、女の子も、髪をとかす。洗面所、便所の使用も後に来る者が困らない様清潔にする。鼻を指でほじくつてゐる子供は、ハンカチを使用するのを教へられる。食事の折の禮儀作法も自然に習ふ様になる。こんな事は些細な事と思はれるかも知れないが、今日の日本人の大人でもこの様な點に無関心な者が多く、恥を公にさらしてゐる處を見ると、やはり、アメリカの躰は重太だと思ふ。

コロムビア大學の中ある師範學校で、保育所にゐた子供と

## アメリカの幼稚園の見學

### 功刀よし子

樂しい園、嬉々とした無邪氣な子供達が安心して仲よく生活して居る幼稚園!! 此處には、國境も人種の差別もなく、自由と平和と愛と喜びにみち將來への希望そのものゝやうでした。

幼稚園を見學してゐる時だけは、自分が外國人で米國に在ると云ふ事をすつかり忘れて、樂しい有意義な一日を過したのでした。富有的家庭の子女の集まつた幼稚園も、比較的貧しい家の子女達の爲の幼稚園も、一様に家庭的な雰圍気にみち、清潔で美しい色調、幼い子供達が獨立して個々の生活

家庭から眞直ぐ小學校に行つた子供とを廣く調査した結果、前者は物事の理解が早く、なんでも一應やつて見やうといふ好奇心が發達し、獨立心が強い反面には、また努力的である、とわかつた。印象の強い時代に同年齢の子供と一日數時間生活し、組織だつた遊び方をやるだけで、これだけの效果があるとすれば、保育所はその使命を立派に果した事にある。アメリカの教育の理想は、よい社會人、よい市民をつくる事であるが、やはりこの訓練は早くから始めなければならぬ事がわかる。

朝八時半頃、看護婦又は経験ある保姆より身體検査を受け、附添つて來た者にその結果を報告し、附添は昨日歸宅しこから登園迄の家庭での健康狀態に異状があれば（夜泣き、不眠、食欲がない、恐怖、怒り等）を報告し今日の保育の参考として居ました。傳染性の疾患のない健康な者は新鮮な空

氣の室外で過すのです。

屋外設備として、シャンクルジム、ハシゴ、ブランコ、シソーラー、大きい箱、三輪車、スペリ臺、箱、積木、砂場、花壇、畑等が子供達を持つて居ました。大きい筋肉運動をさせ、身體の生長を計ると同時に、社會性の發達を計り、協力して遊ぶこと、自分の責任を重んずる等の徳は、自然に自由の遊びの中に學び、生活させて居ました。民主主義教育は、自分の權利のみを主張するのではなく秩序を愛し、他の幸福を計ることにあるのだとうくへ感心しました。

一時間餘を、ノビノビと自由に目的ある遊びを自分の力いっぱいに遊ぶと、子供が疲労する前に、他のプログラムに入るのです。合圖のベルが鳴ると、皆手を止めて、先生の次の言葉を待ちます。先生は、各兒の働きをみて、後かたづけをさせたり、きりのよいところまで續けさせたり、親切に丁寧に命令をしておました。子供達は喜んで後片付けをして五分間位で、すつかり元の様に秩序整然とした處となり、済んだ子供から中へ入つて、御手洗となりました。

「機械に合圖に答へる」と云ふ訓練が非常によく出来てゐましたが、それは命令に對し素直に従ひ、長者を敬ふなどと云ふ徳を養ふ爲に必要ですから、幼い時から合圖に答へる訓練をしておますと、案内して下さつた方が申しておました。

お手洗ひは、一番清潔な所で、幼兒に使ひ易く出来てをり、必ず先生が監督して一人一人の子供の大小便を記録してありました。便是幼兒の健康のパロメーター位に思つて居る

様でした。中には便所へ入つても用を足さずに後で集會の中便所に立つ子供達もありますので、どこの國の子供も同じだと思つた事を思ひ出します。

お手洗ひがすみますと、保育室の一隅に集まつて、先程の自由遊びについて評價して居ました。

「ジョンビルがつかみ合の喧嘩をし、ビルの手頸に、歯のあとが附いて居るが、これは如何にしませう?」と先生は皆に意見をきいておました。二人の立場を説明させ、ビルは泣きながら意味のとれない様な言葉を何か云ひ、ジョンは勝ち誇つたやうに胸をそらせてビルが悪いんだと云つて居ました。他の子供達は手出しを先にしたものが悪いと云ひ、二人とも「御免なさい」をして仲好く隣合つてお席に着ける様に

先生は指導して居ました。腕力によらず、よく考へて、忍耐して、他に譲ること等を話し合つて居ました。この時間は、自分の思ふ事を自由に發表させ、考へ方が間違つておれば正され、又他人の意見に耳を傾け、良い思想を素直に受け入れるやうに幼い時から訓練されておました。正邪の判断力を事件のあるたびに養つてゐるのです。帆かけ舟を作つた子供に、舟を皆にみせ、又皆が、エナメルを塗り名前を書いたらよい、水に浮かばしてみたら、等の提案者があり、大きい洗面器に水を入れて、その上に浮かせてみました。風で走る舟の帆のつけ方について、先生の二三の注意があり、もつとよい舟を明日は造ると決心した様でした。植木に水をやり、鬼小屋の世話ををして居た子供達は、皆の前で褒められてうれしさ

うにして居ました。動植物の世話等、老人もしなかつた子供等はよい暗示となり、弱い者をいたはる心を培はれたことでせう。

花壇の花をむしり取つた子供に、幼稚園の花壇の花は、切る時もつと莖を長く切れば、机の上に飾れるし、又、病氣のお友達の所へ上げられる。花を切る時は他の花や草の根、木の葉を傷つけないやうにと注意し上手に質問を出して、子供達が自分一人でかうした結論を出したのです。

「花を折るべからず」とは教へず目的をもつて切らせ、切る時はどういふ時、切つてよいかを教へてすべてを積極的に保育して居ました。人々の幼児を人格者として尊び、社会の一員としての自覺をもたせ、喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣くことの出来る寛い心を、幼い時から團體生活を通して學んで居ました。

子供達に自由に發表させて言葉の發達を計り、又思想したりその思想を表現する能力を養ふためにいつも上手な質問を出してをられました。恥かしがり屋さん、引込思案の女の子には、安全感と自信を附けさせる爲、本當に好きな事は何か

を發見し、それがよく出來た時褒めて、先生が話を説明し、子供はたゞ「ハイ」ぐらいを返事すればよいやうにし、人前でもあまり注意を引かないやうにと注意して居ました。

音楽、リズム、遊戲、手藝、童話は、お八つの後、三十分位に先生が適當に選び、保育して居ました。私が見學した時は、童話の時間に、一二日前先生が三四の子豚の話をしまし

たのを、子供が繪を書いて紙芝居を作り、一人の子供が立て皆に話しながら見せて居ました。

先生が教へ込むといふよりも子供の自發的活動創案に力を入れ、又出來上つたものよりも出來上るまでの子供の努力、態度等に重きを置いてゐました。グレープの遊びの後、子供達は室内で、庭で自由に自分の選んだことをして遊びました。年齢も異り、本能も異なる子供達ですから、興味も違つて居ますから、皆の子供が何かに興味をもつて遊べるやうにと道具、玩具は隨分親切に選擇され、設備されて居ました。

御晝食の十分前に手を洗つて静かにベットの上で休んだり、蓄音機をきいたり、繪本を見たり、紙芝居を見たりして、お食事となりました。一人の子供の食事時間を二十分以内と定め、いつまでも食べ遊びをすることは許されて居ませんでした。食後、歯をみがいて自分の毛布にくるまつて一時間位晝寝して、疲労回復した元氣な顔をして樂しい我家に歸る嬉々とした様は幸福そのものゝ様でした。

### 小問答『とんでもない』

『民主主義教育では上下の別は教へますまいね。』  
『とんでもない。』

『教へますか。』

『ありますとも、兄は上、弟は下。先生は上、生徒は下。おとなは上、こどもは下。たゞね、上下は上下として守られても平等に變りないだけです。平等の中に上下が守られるだけです。』